



小坂井 実 議員

総合計画に 市街化区域新設・拡大を

問

合併した十四山地区を含めた市総合計画の中に、市街化区域新設・拡大の計画はあるか。

また、取り組んでいく考えはあるか。

答 市長

新市基本計画の中で土地の有効利用ということは今後考えていきたい。

新市基本計画で 考えていきたい

不測の事態に備え 市街化区域を

問

十四山地区は、その全域が市街化調整区域であり、

農業振興地域である。

不測の事態になったとき、市街化区域があれば、ほんのわずかを手放すことで済むことが、農地のままで農地法3条に従い、農地の買える権利を有した元気な人に買い叩かれ10倍もの面積を売ってしまった結果が、今の十四山地区であると思つては思つ。

これは不公平であり、格差の極みであると思われるが、市長の見解を聞く。

地元から都市計画 案を出してほしい

答 市長

市街化区域の基本的な手法というものは、新市の基本計画の土地利用というところの構想の中で、とにかく

地元からしっかりとした都市計画案を出してもらい、市と市民の協働でそういうものを作り上げていきたいと思つている。

余裕とゆとりを 持った農業を

問

私は、農地をいかに市街化区域にしようかと、相反することのように思われるが、何割かの市街化があり、残りの農地は農作業の能率が上がるように集約をし、住宅による虫食いを防いで、余裕とゆとりを持って農業がやれるのではないか。農地は優良農地のまま守ることができないのではないかと

思つが、いかがか。

市と市民とで 考えていきたい

答 市長

優良農地の保全、農地を

確保して農地の産業振興、それも大変大事なことである。

市として税収の確保という意味においても、既成市街地と連担性における市街化づくりというのは、ある意味必要だと思つているので、しっかりとした都市計画、そういったプランづくりを一緒になつて考えていきたい。



▶十四山保育所から鯨ヶ地地内を望む